

「スペシャルオリンピックス日本・兵庫 第2回ボランティア委員会 討議録」

2021年8月5日(金)  
18時30分から20時30分  
ZOOM ミーティング

参加者

- ・横山委員(尼崎)・小松委員(明石)・日比様(西宮)・横山委員(三木)
- ・佐々木(神戸)
- ・5プログラム 5名(代理含む)

司会・進行 佐々木

冒頭、討議内容確認と情報交換が行われた後、本日の討議・報告事項に移った。

1. 第1回ボランティア委員会討議内容確認と情報交換

①ボランティア委員会の役割(指針)と運営

\*委員会の役割の確認と共に2か月に一回程度開催し、委員同士の交流を通して様々なノウハウや情報の共有を進めていく事が確認された。

1. ボランティアの育成と増強
2. ボランティア委員同士の交流(ノウハウ・知恵の出し合い・共有)
3. プログラム間のボランティア活動情報収集(ネットワーク・データベース)
4. ボランティアの教育、ボランティアへの情報提供
5. ボランティア活動を通してSON・兵庫 活性化を図る

②各プログラムの現状についての情報交換

\*各プログラム共ボランティアの高齢化やコロナ禍の中での新規募集の難しさに対する意見が多かったが、尼崎プログラムから学生や若者へのアプローチの必要であるとの意見が出された。

・(三木プログラム)

馬術、テニス競技を実施しているが、馬術、テニスともボランティアの高齢化が進んでいる。テニスでは関西国際大学の学生が競技大会での審判やその後の日常の練習にも参加してくれたが、1年間だけの参加で終わってしまった。このコロナ禍では大学にも依頼しにくい。テニス協議会からは数名のボランティアの参加がある。

・(明石プログラム)

社会福祉法人明桜会に所属している職員のボランティアと一般のボランティアがあり、職員のボランティアがメインとなっている。広報活動を通して募集をしているが、一般ボランティアはなかなか難しい。

・(西宮プログラム)

日常的に参加して貰えるボランティアやコーチの確保と高齢化が課題。知人を通して探しているが、具体的な声掛けの良い方法が見つからない。

・(神戸プログラム)

支援学校の現役先生や OB の先生、ファミリーにボランティア/コーチとして参加して貰っているが、コロナ禍の中でご家庭の問題やご自身の体調の問題で参加できなくなった方が出てきている。競技によっては日程や開催場所の組み換えの必要がある。全体的には、競技に応じたボランティア/コーチの確保とスキルアップが課題。

・(尼崎プログラム)

コロナ禍で活動は出来ていないが、プログラムとして 40 代を中心にメンバーを刷新した。大学生や若い人たちの中には、社会貢献したいという意識を持ち参加できる活動を探している人や実際に地域貢献活動の参加している人たちも多い。SO は認知度が低く、もっと若者向けに情報を発信できれば動きが出てくるのではないかと。MISIA や著名人が応援している事も知られていない。甲南大学とのマッチング活動とか、そういったアプローチが若者の参加につながると思う。

2. 各プログラム「まん延防止等重点措置」解除後の対応について

\*8月2日より第3回の「まん延防止等重点措置」が適用されており、活動は出来ていない。神戸プログラムは7月25日、8月1日に陸上競技プログラムを実施。

3. ボランティア入会申込書、登録書について

\*書式と内容を提示と活用度について確認を行った。尼崎プログラムから展開されたフォーマットがベースであるが、各プログラムの中でそれぞれ書式もあり、活用にはバラツキがあった。

検討の結果、提示した入会申込書を標準とする事で合意した。

登録票を活用しているプログラムは少なく標準書式としての利用は難しい。

4. ボランティアの皆さんのモチベーション維持について

\*ボランティアの皆さんとの連絡は、それぞれのプログラムでメールやLINEを活用している。実際に顔を合わせられない中、連絡事項のやり取りが主となっている。一人、一人のやる気をどうすれば向上できるのかは大きな課題であり活動再開後も継続して話し合いを持つ事となった。

・(西宮プログラム)

連絡事項のメールやり取りはあるが、一方通行であり再開についての反応は不明。

・(明石プログラム)

再開時、どれだけのボランティアの参加があるかについては不安がある。

・(三木プログラム)

LINE、FAXでの連絡が主。

・(神戸プログラム)

メールで必要事項は連絡しているが、一部しか反応が返ってこない。

5. その他活動、問い合わせ報告

①日本スポーツボランティアネットワーク (JSVN)

・第10回総会 6月21日(月) オンライン

SON 東京、SON 神奈川、SON 愛知、SON 大阪、SON 兵庫が参加

2020 年度活動報告・決算・2021 年活動計画・予算の討議、承認

- ・第 5 回正会員交流 6 月 22 日(火) オンライン  
SON 東京、SON 神奈川、SON 大阪、SON 兵庫が参加  
各地区の活動について紹介

②甲南大学地域連携センター「CHIKI×GAKUSEI~マッチングプロジェクト」

- ・6 月 27 日(日) オンライン 佐々木、神戸プログラム橋本広報委員長が参加  
\* 学生 16 名、地域団体 18 団体が参加。学生 16 名が 6 組、各団体も 6 組に分かれてグループワークを 6 回実施。SON・兵庫は「アスリートを支えるボランティア」の動画を活用して SO 及びボランティアの活動について紹介した。

(報告書別添)

③ボランティア参加問い合わせ (SON・兵庫 HP)

- \* 問い合わせに対して、コロナ禍の中で活動ができていない現状と今後対応と支援についてメールにて回答。ファーストリテイリング様にはユニクロで働いているアスリートが居る事も報告。各プログラムには、ボランティア要請時の課題と要望について確認した。

- ・大阪大学特任研究員 丸谷賢弘 (まるたに よしひろ) 氏

スペシャルオリンピックスの活動に以前から興味を持っており、ご自身の弟さんも自閉症という事もあり幼少期から知的障がいのある人たちと交流を持っておられる。現在通っている大阪体育大学でもテニス部に所属、現在は日本テニス協会のハイパフォーマンスサポート事業の外部協力者としてナショナルチームを支援されている。テニス競技でのコーチボランティアとして手伝いので参加の方法を知りたい。

- ・ファーストリテイリング サステイナビリティ部 園 俊彦氏

2002 年より、SO 日本の世界大選手団ユニフォーム、全国大会のスタッフ・ボランティアのユニフォームを製作と運営支援を行って来ているが、単発での支援でしかないため、従業員の隅々まで SO の情報発信ができていない現状がある。

SO の地区組織に目を向けてユニクロ店舗のネットワークを活用すると共にダイバーシティ社会に生きる従業員一人一人に SO の支援活動を通じて、これらの事を実感させたい。SON・兵庫地区への支援と交流を行いたいため、SON・兵庫の活動計画を教えて貰いたい。

- ・(三木プログラム)

以前テニスの競技会でユニクロの皆さんにボランティアで参加して貰ったが、参加が当日に判ったため、具体的な役割をお願いする事が出来なかった。

ボランティアの皆さんには事前に準備段階から加わってもらえれば具体的な役割をお願いできる。ユニクロ様には運営委員会の参加も考えても良いのでは。

- ・(西宮プログラム)

当日、役割を振る事ができず何もして貰えなかった。イベントボランティアの皆さんにはイベントを一緒に作るという前提を作らないと声かけしにくい

丸谷様には日常プログラムからの支援をお願いしたい。

6. ボランティア委員会の交流について

- \* 各プログラムのイベント (花見・BBQ 等) に互いに参加し交流とボランティアの人達の顔合わせができれば、お互いの活動の中身が理解できる。

ボランティア委員会としても年に1回は交流会ができれば、もっと活動の理解が深まるのではないかと等意見が出された。

7. 次回開催日(予定) 月 日 ( ) 時から

\*10月第1週～第2週でZOOMか対面かも含めて調整する。

以上